

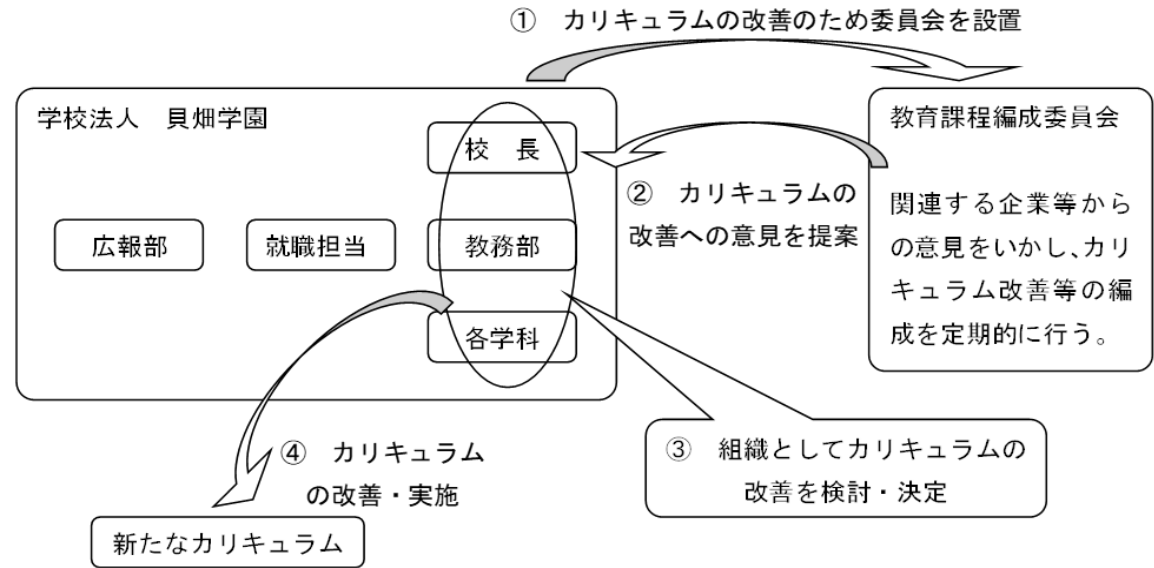
職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専門学校岡山ビューティモード		平成14年3月29日		山本 裕司		〒 700－0032 (住所) 岡山県岡山市北区昭和町3－12 (電話) 086－214－2555		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人貝畑学園		昭和58年3月3日		貝畑 拓哉		〒 700－0825 (住所) 岡山県岡山市北区田町1－1－9 (電話) 086－230－0250		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
衛生	衛生専門課程		ヘアビューティ学科		平成14(2002)年度	－	平成26(2014)年度	
学科の目的	美容業界で就職する為に、美容師国家試験の取得を目標とする。また、専門知識や専門技術に加え、接客マナーを身につけることで即戦力として活躍できる人材を育成する。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	主な教育内容:美容師国家試験以外の授業で、サロンワーク実習のシャンプー・ヘッドスパ及び、ビジネスマナー・就職セミナー・アイラッシュ等、即戦力を目的としたスキルを磨く。 取得可能な資格(美容師国家試験、パーソナルカラー検定、ショウウエムラメイクアップ技術検定、サービス接客検定) コンテスト入賞等の実績 全国理容美容学生技術大会中国地区大会 ワインディング種目 優秀賞2名受賞							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			76 単位	33 単位	3 単位	40 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
240 人	228 人		0 人		0 %	8 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		95		人			
	■就職希望者数(D)		89		人			
	■就職者数(E)		89		人			
	■地元就職者数(F)		73		人			
	■就職率(E/D)		100		%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		82		%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		94		%			
	■進学者数		0		人			
	■その他							
	(令和 7 年度卒業者に関する令和 8 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		(令和7年度卒業生) 美容サロン業界 (主な就職先 株式会社パーヴ Parve Mix Selection. 株式会社.ALEAP 株式会社NY NY) アイビューティ業界 (主な就職先 A株式会社 株式会社BALANCE eyelash salon EME)						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載							
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載した ホームページURL			
当該学科の ホームページ URL	URL:https://www.obmnet.ac.jp/course/hair/							
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間			
	うち必修授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間			
	(B:単位数による算定)							
	総単位数				76 単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				8 単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				0 単位			
	うち必修単位数				76 単位			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				8 単位			
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				0 単位			
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				0 単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				4 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人			
	計				4 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				4 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
美容業界の専門分野における実践的な知識や技術、技能の習得、また美的感覚を磨く職業教育に関した企業と組織的に連携し、授業科目の創設及び既存科目の内容の改善・工夫を行う事とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会は、企業等の要請を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するために、学校法人貝畑学園において、編成委員会を教務部と別組織として編成し、この中にヘアビューティ学科編成委員会を置く。
まず、専攻分野に関した動向や新たに必要となる人材スキル等の情報を外部委員より頂き、この意見、要望を取り入れ教育課程の骨組み、および科目内容の詳細を各学科、教務部、校長を中心に、また、就職担当、広報部の意見も参考に検討し、改善、変更、追加科目等を詰め、作成した科目内容について、再度、検討協議し、次年度の教育課程に反映していく。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
池田 信童	岡山県美容生活衛生同業組合 倉敷支部 会計	令和7年6月1日～令和9年5月31日(2年)	①
石村 亮馬	株式会社MONDO 代表取締役	令和6年6月1日～令和8年5月31日(2年)	③
松井 隆	内部委員 副校長	令和7年6月1日～令和9年5月31日(2年)	—
森下 堅一	内部委員 教務部	令和7年6月1日～令和9年5月31日(2年)	—
白神 健一	内部委員 教務部	令和7年6月1日～令和9年5月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年8月4日 10:00～12:00

第2回 令和8年3月9日 9:00～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

これまでの委員会でのアドバイスをもとにカリキュラムの見直しを行い、基礎的な教育カリキュラムは整いつつある。しかしながら、日々変化し続ける美容業界へ新たな知識、技能を身につけた学生を輩出していくために、スポット的に今流行しているものを授業に取り入れてはどうかというご意見をいただき、現場で活躍する美容師による技術指導や提案力を磨くため、接客ロールプレイングの授業形態を取り入れている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係				
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 教科書では、補えない部分を企業と連携しカリキュラムを制作しより実践的な知識や技術の習得を目指しスキルの向上を目的とする。				
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 ネイル、まつ毛エクステンション、カラーコーディネートなどサロンワーク的な実習授業。また美容師国家試験対策における見極め実技試験の評価、改善対策授業の中で学期末ごとに学科試験及び実技試験を行い評価する。				
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。				
	科 目 名	企業連携の方法	科目概要	連 携 企 業 等
	美容実習	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	国家試験対策。(カット、ワインディング、オールウェーブセッティング)校外実習。(授業で修得した学習の確認の為、5日間校外の企業で実務実習を行い美容知識など実践的なサロンワークを学ぶ)	株式会社パーブ 株式会社BALANCE 株式会社セットアップ 株式会社MICHIGRUP 株式会社ブルーム他 全54社
	サロンワークⅠ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	爪の構造と機能、ネイルに使用する道具の名称・使い方。理論と同時に実習を行い、知識を深める。	Nail Salon Lily
	サロンワークⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	サロンでの実践的技術(まつ毛エクステンション、カラー、パーマ、セットアップ)などを学ぶ。	eye RimaBeauty Salon CLAIRGE
	サロンワークⅢ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	4専攻(ヘアデザイン・ベーシック・ブライダルメイク・着付け)に分かれてサロンワークを中心とした技術は勿論の事、接客マナーや言葉遣い礼儀作法、日本の文化など知識を深める。	クローズアップ株式会社イメージサ
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係				
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校、教育研修規定 第4条 教育計画は、学校の教育目的・基本方針に基づき、経営計画に則した視野から次の計画を立てるものとする。 (1) 長期教育計画 教育基本方針に基づいて長期的な教育計画を立てる。 (2) 年次教育計画 長期教育計画と連動して、年度ごとに年次教育計画を立てる。 に基づき、校長、教務部長及び学科担当が計画し、当学科では、美容業界等の団体が主催する研修に参加し、業界の動向等の知識を習得し、学生への指導へと生かしていく。また、授業の進め方やコミュニケーション能力を高める研修を実施し、すべての教員が学生指導を行っていく上で必要な知識、スキルを習得する。				
(2)研修等の実績				
①専攻分野における実務に関する研修等				
研修名:	中国地区理容美容学校協議会・教職員研修会及び施設 長・校長研修会広島		連携企業等:	中国地区理容美容学校協議会
期間:	令和7年10月18日(土)13:30~19:30 10月19日(日)9:00~12:00		対象:	西崎誠、松井隆、 森下堅一、守谷志妃
内容	1日目 分科会、合同研修会Ⅰ、合同研修会Ⅱ (研修Ⅰ・講演)「サロンと教育 それぞれの現状と対策について」(株式会社Happy relations 代表取締役 石原かおり氏) (研修Ⅱ・講演)「専門学校における危機管理」(上八丁堀法律事務所 弁護士 三保友佳氏) 2日目 合同研修会Ⅲ、合同研修会Ⅳ (研修Ⅲ・講演)「学生の理解と支援～人が仕事を見つけること～」(広島都市学園大学 教授 竹林地毅氏) (研修Ⅳ・講演)「メンズトレンドカット」(HAIR CRESATE GENTS 代表 神谷繁樹氏)			
研修名:	即戦力養成講習会		連携企業等:	公益社団法人日本理容美容教育センター
期間:	令和7年8月25日(月) 令和7年10月27日(月) 令和7年11月10日(月) 令和7年11月17日(月) 令和7年12月1日(月)		対象:	松井隆

内容	就職後直ぐに求められる接遇・マナーを学ぶ、又、セット技術を通してテクニックの向上を図るための講習会		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	多様化する学生の課題と行動理解～教員のための支援力向上研修～	連携企業等:	NPO法人STEP 臨床心理士 坂元優 松井隆、森下堅一、 岩瀬泰、白神健一、 守谷志妃、高田勝之、 池田紗良
期間:	令和7年9月24日(水)10:00～12:00	対象:	
内容	①社会的背景と現状 ②学生に多い心理的な問題とタイプ別支援 ③保護者対応及び保護者や医療・支援機関との連携		
研修名:	生成AI入門講座(オンライン)	連携企業等:	Tristella株式会社 代表取締役 中山顕 松井隆、森下堅一、 岩瀬泰、白神健一、 守谷志妃、高田勝之、 池田紗良
期間:	令和7年11月15日(土)15:30～17:30	対象:	
内容	生成AIについての基本理解を深め、教育現場での活用可能性を探る入門講座 ①AIと生成AIの違い ②生成AIの基本と仕組み ③実践体験 ④教育現場での活用可能性 ⑤質疑応答・振り返り		
研修名:	初年次教育におけるチームビルディング指導法およびクラス運営力強化研修	連携企業等:	株式会社ラーニングバリュー 専務取締役 本田貴継 他 松井隆、森下堅一、 岩瀬泰、白神健一、 守谷志妃、高田勝之、 池田紗良
期間:	令和8年3月16日(月)～18日(水)	対象:	
内容	新入生の円滑な学校生活への適応、および社会人基礎力の向上を目的とした人間関係構築プログラムについて、ファシリテーション技法を演習形式で実践的に修得し、組織的なクラス運営・指導能力の向上を図る。		
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	中国地区理容美容学校協議会・教職員研修会及び施設長・校長研修会IN広島	連携企業等:	中国地区理容美容学校協議会
期間:	令和8年10月3日(土)13:30～19:30 10月4日(日)9:30～12:30	対象:	山本裕司、松井隆、 森下堅一、守谷志妃
内容	1日目 分科会、合同研修会 (研修Ⅰ・講演)「未定」(案) (研修Ⅱ・講演)「未定」(案) (研修Ⅲ・講演)「未定」(案) 2日目 合同研修会Ⅱ、合同研修会Ⅲ (研修Ⅳ・講演)「未定」(案)		
研修名:	即戦力養成講習会	連携企業等:	公益社団法人日本理容美容教育センター
期間:	令和8年9月28日(月) 令和8年10月26日(月) 令和8年11月9日(月) 令和8年11月30日(月) 令和8年12月14日(月)	対象:	松井隆
内容	クリエイティブ・テクニカルスタイル(セット技術)を通してカット・カラー・ブロー技術の向上を図るための講習会		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	卒業生・入学生アンケート分析に基づく教育改善研修	連携企業等:	株式会社応用社会心理学研究所 臨床心理士 坂元優太 松井隆、森下堅一、 白神健一、守谷志妃、 高田勝之、池田紗良
期間:	令和8年9月14日(月)10:00～15:00(予定)	対象:	
内容	令和7年度卒業生および令和8年度入学生を対象としたアンケート結果を多角的に分析・検証し、本校の教育成果と課題を明確にすることで、教育の質のさらなる向上および学生満足度を高めるための具体的な指導改善策を構築する。		

研修名:	教育活動および業務における生成AI活用指導力向上研修	連携企業等:	当校教職員他
期間:	令和8年9月15日(火)10:00~12:00(予定)	対象:	松井隆、森下堅一、 白神健一、守谷志妃、 高田勝之、池田紗良
内容:	授業展開や学校業務における生成AIの具体的な活用事例の紹介と実践的な演習を通じ、最新のデジタル技術を用いた教育手法の習得、および教職員の指導力向上と業務効率化を推進する。 ①AIと生成AIの違い ②生成AIの基本と仕組み ③実践体験 ④教育現場での活用可能性 ⑤質疑応答・振り返り		

研修名:	初年次教育におけるチームビルディング指導法およびクラス運営力強化研修	連携企業等:	株式会社ラーニングバリュー 専務取締役 本田貴継 他
期間:	令和9年3月15日(月)~17日(水)9:20~17:00(予定)	対象:	松井隆、森下堅一、 白神健一、守谷志妃、 高田勝之、池田紗良
内容:	新入生の円滑な学校生活への適応、および社会人基礎力の向上を目的とした人間関係構築プログラムについて、ファシリテーション技法を演習形式で実践的に修得し、組織的なクラス運営・指導能力の向上を図る。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
 年度ごとに行っている学内自己評価委員で作成している自己評価を基に、企業等の学校関係者委員と情報を共有し、点検・評価を行い、不備な事項についての改善、疑問点の解消を行うことで、自己評価の客観性・透明性を高めていく。
 また、関連企業・病院、教育関係者や卒業生といった学校に関係する人たちに、学校を理解してもらう情報を発信し、学校だけでなく、互いに協力しながら学生のことを考え、それぞれの立場・視点に立って意見を出し合うことで、よりよい学校づくりを行っていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材等
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	教育成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
 学校と学校関係者間で情報を共有し、不備な点等の改善、疑問点の解消を行った結果を、情報公開することにより、関連企業・病院、教育関係者や卒業生といった学校に関係する人たちに学校を理解してもらい、学校と互いに協力しながら学生のことを考え、それぞれの立場・視点に立って意見を出し合うことで、よりよい学校づくりを行っていく。
 学生指導においては、指導記録をきちんと残し、担当教員だけでなく、全体での情報共有を行う。職業体験(インターンシップ)については、各学科で目的の再確認を行い、時期・日数等について検討を行う。ボランティア清掃活動等は、学校全体、各学科で今以上の参加を促す、また、参加機会を与えるなど後押しの出来る方法を検討していく。
 評価の高い項目については、学校の強みとして把握し広報活動等で有効に利用していく。

<学校関係者評価委員からの意見①>
 他の学校で外部講師をした際、学生への授業アンケートがあり、結果のフィードバックがあった。学生の意見を聴けるよい方法なので是非活用してほしい。
 →現在は紙ベースでアンケートを実施し、教務部長と各学科担当が内容を把握している。今後はWebアンケートの導入を検討し、ペーパーレス化を図るとともに、集計結果を科目担当教員にフィードバックできるような仕組みを整備していく。

<学校関係者評価委員からの意見②>
 高等学校では、近年増加している精神的な疾患を持つ学生の対応が課題となっているが、専門学校でも対応策を整備したほうが良いのではないかと。
 →本校においても精神的に問題を抱えている学生の比率が増えているため、担任とキャリアセンタースタッフが連携し、学生フォローを強化する。また学内に相談窓口を開設し、メールでの相談が出来るようにするほか、臨床心理士の方とも連携して希望学生が面談を行えるよう合わせて環境を整備していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
穂山 晃治	株式会社アコービューティック 代表取締役社長	令和6年6月1日～令和8 年5月31日(2年)	企業等委員
有信 秀和	パティスリーピアジェ 代表	令和6年6月1日～令和8 年5月31日(2年)	企業等委員
磯島 貴史	株式会社ティアラ 代表取締役社長	令和6年6月1日～令和8 年5月31日(2年)	企業等委員
河合 洋二郎	河合内科西口クリニック 院長	令和6年6月1日～令和8 年5月31日(2年)	企業等委員
杉井 正治	山陽事務機株式会社 営業部次長	令和6年6月1日～令和8 年5月31日(2年)	卒業生
濱本 隆史	株式会社アミーゴ 中国リージョナルマネージャー	令和7年6月1日～令和9 年5月31日(2年)	企業等委員
森本 浩史	株式会社カイトックホールディングス 総務部 ゼネラルマネージャー	令和7年6月1日～令和9 年5月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://www.obcnet.ac.jp/gakuen/about/index.html#p05>

公表時期: 令和8年10月15日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校自己評価の実施、学校関係者(関連企業団体、教育関係者、卒業生)による評価を実施、公表することにより、教育環境の整備、教育内容の充実、教育水準の向上にさらに努めていく。

情報提供は、ホームページ、パンフレット等で行うが、基本的にホームページから閲覧でき、内容の更新をきちんと行うことで、関連企業団体、卒業生、保護者等に学校のことを理解してもらう。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学園概要、沿革、基本方針
(2) 各学科等の教育	学科紹介
(3) 教職員	教員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実践教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動
(6) 学生の生活支援	学生支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生募集
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://www.obcnet.ac.jp/gakuen/about/index.html#p05>

公表時期: 令和8年3月20日

授業科目等の概要

(衛生専門課程 ヘアビューティ学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			関係法規・制度	美容と関係の深い行政の活動や美容業に関連する法規や制度を学ぶ。美容師国家試験対策。	2通	30	1	○			○			○	
2	○			衛生管理Ⅰ	公衆衛生、環境衛生の意義と目的を美容の業務と関連付けながら具体的に学ぶ。	1通	45	1.5	○			○			○	
3	○			衛生管理Ⅱ	感染症の病態や感染経路を理解し、理美容業との関係を学ぶ。また消毒法の種類、原理、特徴を理解する。美容師国家試験対策	2通	45	1.5	○			○			○	
4	○			保健Ⅰ	人体の構造及び機能について学ぶ。 (頭部・顔部・骨格・筋系・神経系・血液と免疫系・呼吸器系・消化器系・感覚器系)	1通	30	1	○			○			○	
5	○			保健Ⅱ	皮膚科学について学ぶ。 (皮膚の構造・皮膚付属器官の構造・皮膚と皮膚付属器官の保健・疾患) 美容師国家試験対策	2通	60	2	○			○			○	
6	○			香粧品化学Ⅰ	香粧品の原料や配合の成り立ち、性状、使用目的を学ぶ。	1通	30	1	○			○			○	
7	○			香粧品化学Ⅱ	どのような薬品が香粧品に属するのか、社会的意義や特性、法的な根拠、製品の安全性などを学ぶ。国家試験対策。	2通	30	1	○			○			○	
8	○			文化論Ⅰ	西洋及び日本のファッション文化を学び、ヘアスタイル、メイク、ファッション等の知識を深めるとともに、ヘアデザイン画の技術を身に付ける。	1通	60	2	○			○			○	
9	○			文化論Ⅱ	日本のファッション文化の歴史を学び、ヘアスタイル、メイク、ファッション等の知識を深める。美容師国家試験対策	2通	30	1	○			○			○	
10	○			運営管理	顧客に合わせたマーケティングなどを学ぶ。	2通	30	1	○			○		○		
11	○			美容技術理論Ⅰ	実技(カットやパーマなど)の科学的・論理的な根拠を学び、安全で正しい技術の土台を作る。 美容師国家試験対策。	1通	75	2.5	○			○		○		
12	○			美容技術理論Ⅱ	髪だけでなく、メイク・エステ・着付けなど美容師としてマルチに活躍するための知識を学ぶ。美容師国家試験対策	2通	75	2.5	○			○			○	

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	修得（合格）科目の単位数合計が2年間で62単位以上を取得すること。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	必修科目は必須、選択必修科目は専攻により選択履修	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。